

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位(時間)	科目責任者
公衆栄養学Ⅱ	3年次	必修	講義	2単位(30時間)	真島 和徳 ※
授 業 概 要					
<p>地域等の健康問題とそれを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析し、相互的に評価・判定する能力を養う。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、人々に適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の理論と方法を習得する。問題・課題を捉えるとき、栄養・食生活問題と健康問題の因果関係について、栄養疫学の原理と方法理解も含み講義し、わが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状、課題とそれらに対応した栄養政策について理解できるようにする。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・わが国における健康・栄養問題の歴史的な流れを踏まえ、現在から将来にわたる栄養・食生活上の課題を整理する。 ・国、地域、職域、学校その他での公衆栄養プログラムを計画・実施・評価するための法律的・制度的な基盤をよく理解し、説明できる。 ・各食事調査法の特徴と方法、結果データの解釈について説明できる。 ・栄養情報及びコミュニケーションの管理などの仕組みが説明できる。 ・食事摂取基準の概念、各数値の策定根拠及び活用方法などが説明できる。 					
回	学 習 内 容				担当教員
1	公衆栄養学Ⅰ	まとめ			真島 和徳 ※
2	栄養政策②	実施に関する指針とツール			
3		公衆栄養学関連法規②			
4		国の健康増進基本方針と地方計画①			
5		国の健康増進基本方針と地方計画②			
6		諸外国の健康・栄養政策			
7	公衆栄養マネジメント	概要アセスメント食事摂取基準の集団への活用			
8		アセスメント 質問調査の方法と活用など			
9		公衆栄養プログラム① 目標 計画			
10		公衆栄養プログラム② 実施 評価			
11		公衆栄養プログラム③			
12	公衆栄養プログラムの展開	地域特性に対応したプログラムの展開			
13		食環境づくりのためのプログラムの展開			
14		地域集団の特性別プログラムの展開①			
15		地域集団の特性別プログラムの展開②			
学 習 方 法					
<p>教科書や配付資料を中心に学ぶ。重要なキーワードや内容は、教科書や資料にある。授業でもポイントをまとめるが、自主的に重要項目を抜き出し、ノートにまとめることが重要。ノートまとめ力を身につけ、理解を深めるためによりによって、国家試験対策にも繋がる学習力となる。</p> <p>月曜試験問題を復習学習に活用することを望む。</p>					
評 価 方 法					
<p>[評価方法]</p> <p>欠席・遅刻、早退が極力ないことが基本である。科目終了試験は60点以上を合格判定とし、月曜試験(評価量15%)を含めて成績の評価を行う。</p>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>[教科書]</p> <p>管理栄養士養成課程「栄養管理と生命科学シリーズ」公衆栄養学の科学</p> <p>[参考書]</p> <p style="text-align: right;">(大和田浩子・中山健夫他：理工図書)</p> <p>わかりやすいEBNと栄養疫学(佐々木敏：同文書院)</p> <p>国民健康・栄養調査の報告(健康・栄養情報研究会編：第一出版)</p> <p>国民衛生の動向(厚生統計協会) 公衆栄養マニュアル(南山堂) 食事調査マニュアル(南山堂)</p> <p>栄養調理六法(新日本法規) 日本人の食事摂取基準(第一出版)等</p>					